

合同

No. 488

「乳と蜜の流れる土地へ」

日本キリスト合同教会教師

品川 謙一



「こうして、主があなたたちの先祖に、彼らとその子孫に与えると誓われた土地、すなわち乳と蜜の流れる土地で、あなたたちは長く生きることができる。

(中略) あなたたちが渡って行って得ようとする土地は、山も谷もある土地で、天から降る雨で潤されている。それは、あなたの神、主が御心にかけ、あなたの神、主が年の初めから年の終わりまで、常に目を注いでおられる土地である」(申命記 11章9節～12節)。

最近では中東地域の地図をニュースなどで見るがありますが、イスラエルという国の地形はとても特殊であることにお気づきでしょうか。商業都市テルアビブがある地中海沿岸から標高750mのエルサレムまで約70km。そこからヨルダン川が注ぎ込む海拔マイナス400mの死海まで約20kmというアップダウンが激しい地形が南北に続いています。まさに「山も谷もある土地」なのです。

ですから気候的にもとても極端です。地中海からの湿った風はエルサレムがある山の斜面にあたって雨を降らせるので、地中海沿岸は緑豊かですが、山を越えた向こう側のヨルダン川エリアは乾燥した砂漠・荒れ地になります。生活様式も地中海側の農耕生活とヨルダン川側の放牧生活は対照的です。

冒頭の聖書箇所にある「蜜」とは地中海沿岸で育つデーツ(ナツメヤシ)のシロップで、農耕生活を象徴するものです。そこでは農作物がよく育つので生活は豊かですが、しばしば民は怠惰になり、神のことを忘れて偶像礼拝に陥ってしまうリスクがあります。

「乳」とは放牧生活を支える山羊の乳であり、荒野での生活を象徴するものです。そこは乾燥した荒れ地で常に命の危険が伴う厳しい生活環境です。し

かし、だからこそ神が「常に目を注いでおられる」ことをひしひしと実感できる場所でもあります。聖書の預言者たちが「荒野」に神の声を聞きに行くのは、そこでこそ真の神に出会える場所であったからなのです。

「乳と蜜の流れる土地」と聞くと、何となく豊かで生活が楽な場所のような印象がありますが、そうではありません。この場所の特徴は、緑豊かだが誘惑にさらされる土地と、命の危険があるが神の臨在を実感できる土地が隣り合わせになっており、それらを行き来しながら、「あなたの神、主が年の初めから年の終わりまで、常に目を注いでおられる」というリアリティーを常に生きられるように訓練される場所なのです。

このような特殊な土地に、神はご自分の民を導かれました。つまり、この土地の地理的条件がそのまま神からわたしたちへのメッセージなのです。神がわたしたちを招いておられるのは、失敗や間違いのない人生というものではなく、困難や苦しみの中(荒野)で常に目を注いでくださる神に出会い恵みの中に生かされること。また物質的な豊かさの中(緑豊かな土地)で神を見失ってしまうようなときにも、神はわたしたちを見捨てず訓練の機会を与えて、ご自分のもとに呼び戻してくださる。そんな神と一緒に歩むダイナミックな人生です。

9月下旬に韓国インチョン市で開催された第4回ローザンヌ世界宣教会議にオンラインで参加しました。現地参加5000人、オンライン参加5000人という大規模な国際会議のテーマは「教会が共にキリストを伝え、示そう！」(Let the church declare and display Christ together!)でした。言葉による宣教(declare)だけでなく、日々の生活(職場、学校、地域社会)やライフスタイルを通してキリストを示す宣教(display)が強調されました。それはまさに神がご自分の民をイスラエルという特殊な地理的条件の中で訓練しようとされた目的でもあります。

神は日々わたしたちを「乳と蜜の流れる土地」で生きるように招いておられます。そこは全てが平らで歩きやすい平地ではないのですが、「山も谷もある土地」であるからこそ、「天から降る雨で潤され」、「常に目を注いでおられる」神の臨在を感じつつ共に歩む恵みを知ることができる土地なのです。